

地域振興推進費自己評価書

提出区分	実績	整理番号	8	課題区分	C	令和5年4月25日
横断的な課題	諏訪湖を活かしたまちづくり(諏訪湖創生ビジョンの推進)					
地域重点政策	諏訪湖を活かしたまちづくり(諏訪湖創生ビジョンの推進)					諏訪地域振興局
実施機関	諏訪農業農村支援センター			担当課	所属	農業振興係
事業名	ワカサギ資源に関する基礎調査			電話	0266-57-2913(内線2364)	
				E-mail	suwa-nogyo@pref.nagano.lg.jp	
事業概要	目的 (目指す姿)	諏訪湖の魚を代表するワカサギについて、安定的な漁獲量(採卵含む)を確保するとともにワカサギを利活用する関連産業の経営安定化につなげる。				
	現状と課題	次年度の漁獲量については、前年度の採卵量が大きく影響するため、産卵期における資源量及び成熟度調査を実施し、産卵が可能な個体が時期によってどの程度湖内に生息しているか把握することが重要になる。昨年は採捕期間を2月上旬～3月中旬として調査を実施したが3月上旬までは諏訪湖が部分結氷しており採捕できなかったが、解氷した3月中旬～下旬では親魚が採捕でき、採捕した魚は水試で成熟度調査を実施。河口部で採捕された魚が十分に成熟していることが確認できた。今年度は、採捕期間を2月末～3月下旬までとして、解氷後かつ採卵最盛期直前に集中して実施することで、産卵前の正確な資源状態を把握し、産卵可能な個体がより豊富な地点を検討していくことで、採卵事業(水試研究中)の定置網設置場所の選定に活用する。				
概要	内容 (変更後の内容)	諏訪湖におけるワカサギの遡上前から遡上時期における諏訪湖流入河川河口部のワカサギの資源量を把握することを目的に捕獲量を調査した。 (1)場所：諏訪エリア(上川・宮川) 岡谷・下諏訪エリア(砥川・十四瀬川・横河川) (2)協力者：諏訪湖魚業協同組合、水産試験場諏訪支場 (3)調査方法及び内容 ・投網による魚獲(資源量及び採捕場所の確認) 令和5年2月20日～3月22日(計12回) ・ワカサギ個体調査(成熟度) 各エリアごと 100匹程度/回(採捕尾数が100尾未満の場合は全量) ※採捕日・採捕時間については関係者と協議のうえ決定。 (4)調査結果に基づく方策検討会議の開催 ・調査結果の報告 ・調査者および関係者との意見交換 (諏訪湖の状態、ワカサギの分布・資源状況など) ・遡上状況の確認及び本調査をもとにした採捕地点の検討				
		事業期間	令和5年2月		～	令和5年3月
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容		実績額	備考	
	ワカサギの試験採捕	採捕作業委託		198,000	@15,000×12回×消費税	
	合 計		198,000			
指標及び達成状況	成 果 指 標		目標値	成果	達 成 状 況	
	調査結果に基づく方策検討会議の開催		2回	2回	● 達成	
	漁獲量増加に向けた効果的な定置網設置場所の提案		1件	1件	○ 一部達成	
					○ 未達成	
事業実績・成果	・2月20日から3月27日までの間に12回の調査を行い、計394尾のワカサギを採取した。 ・採捕したワカサギは水産試験場に持ち込み、全長、体重、成熟度を調査した。 ・調査後、投網従事者に聞き取りを行い、来年度の調査に向けて定置網設置場所の変更を検討した。また、関係機関と定期開催している連絡会議内で、本調査の結果報告及び、ワカサギの動向に関しての意見交換を行った。ワカサギの集団行動場所の確認ができれば、そこに定置網をしかけ、親魚を潤沢に捕獲し、採卵ができたが、まとまって捕獲できる場所が確認できなかったことに加えワカサギの生育ステージが進んでいなかったことから卵の確保に至らなかった。 ・昨年は成長が早く、成熟した個体が確保できたが、本年度は成熟が遅く、産卵行動に出ている個体はほとんどいない状態であった。遡上前の居場所はまだ不明であるが、未成熟個体は「民宿みなど」の辺りに群れているという情報を得たため、今後産卵遡上する個体の確保を狙い、定置網を河口付近に再設置した。 (聞き取り内容) ・前回(R3年度)はあまりとれなかったが、今回は諏訪市側でまとまって採れたのはよかった。 ・採れた魚が小さく痩せており元気がない、産卵を控えた個体ならもっと元気で、お腹が膨らんでいる。 ・諏訪湖の中のエサが少ないのでは。 聞き取り結果及び調査結果を踏まえ、令和5年10月を目途に関係機関で情報共有及び検討会を開催し、採卵用の親魚を効果的に捕獲する方法を検討する。 (次年度案) ・調査時間を夜間にしたのは良かったという意見があることから、次年度も夜間に調査を実施する予定。 ・R4調査にて新川河口付近に群れている情報を新たに得たことから、新川付近も調査範囲に追加し、遡上前の群れを採捕することで、遡上前にどこに群れる傾向があるのか調査する。					
	今後の方向性	調査方法を改善し、調査を継続する。				